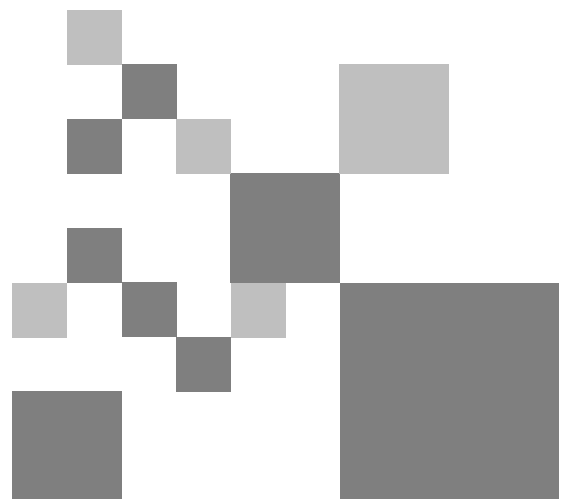




第2章

観光に関する現状と課題



1. 川根本町の概要

■位置・地勢

本町は静岡県中央部に位置し、東は静岡市、西に浜松市、南は島田市に隣接し、北は長野県との県境となっています。本町は東西約 23km、南北約 40km と南北に細長く、面積は 496.72k m² となっています。そのうち、集落は東西約 15km、南北約 20km の範囲に点在していて、町の面積の約 94%が森林という自然豊かな環境となっています。

また、東西の境界は 700～2,600m の山々で遮られており、まちの中心を南北に流れる大井川と寸又川等の支流に沿って、美しい渓谷が築かれています。

なお、本町の最北部、光岳の南西側の一帯は、全国で 5箇所、本州では唯一の原生自然環境保全地域に指定され、人の活動に影響されることなく原生の状態を維持している大変貴重な自然環境となっています。

■歴史・沿革

本町には、旧石器時代（約 3～4 万年前）から人が住み始めたとされ、町内では縄文時代（約 1 万年～2,500 年前）の遺跡が数多く発見されています。

また、江戸時代以前には、大井川右岸は遠江国に、左岸は駿河国に属していて、明治 4 年の廃藩置県により、遠江国は浜松県に駿河国は静岡県の管下となり、明治 9 年に浜松県が廃止されるまで、属する令制国や県が違ふという時代がありました。

さらに、明治 22 年の町村制により、榛原郡に藤川・水川・上長尾・下長尾・久野脇の 5 カ村が合併した中川根村と、崎平・千頭・奥泉・犬間の 4 カ村が合併した上川根村が、志太郡に堀之内・田野口・壺町河内・下泉・地名の 5 カ村が合併した徳山村と、上岸・青部・田代・藤川・桑野山・梅地の 6 カ村が合併した東川根村が誕生しました。

続いて、昭和 31 年 9 月、中川根村に徳山村を編入して新しい中川根村が生まれ、一方、上川根村と東川根村が合併して本川根町が誕生しました。なお、昭和 32 年 3 月には、本川根町文沢地区を中川根村に編入しています。

その後、中川根村は昭和 37 年 4 月に町制を施行し、中川根町となり、平成 17 年 9 月、平成の大合併により中川根町と本川根町が合併し、川根本町が誕生、現在に至っています。

なお、本町はかつて、稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが主産業で、茶の栽培は近世初期から始まり、明治以降は輸出産業として高い評価を受けていた時期もありました。

また、明治末からはダム建設が始まり、大正・昭和には発電所の建設が進み、昭和 6 年 12 月には大井川鐵道が全線開通しました。また、高度経済成長期には工場誘致と寸又峡温泉などを中心とした観光の取り組みが進められ、昭和 40 年頃からは、道路や橋などのインフラ整備や公共施設の整備とあわせて、観光の拠点施設の整備が行われました。

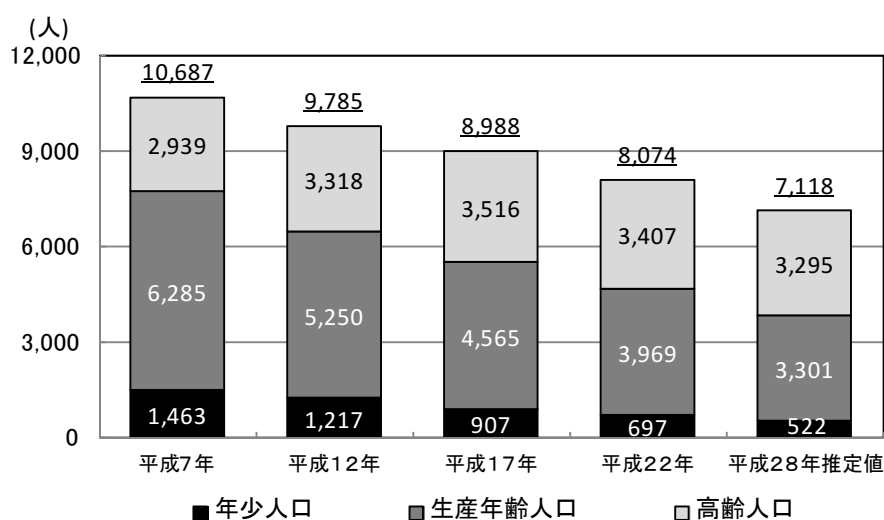
2. 川根本町の現状

■人口・世帯（年齢別3区分、世帯数の推移）

本町の人口は、平成7年の国勢調査時には10,000人を超えていましたが、年間160～180人程度減少し、平成22年の国勢調査では、8,074人となっています。

また、このままの人口減少が続くと平成28年には7,118人程度になると予測されています。なかでも、年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）の減少は深刻で、まちの産業の低迷や地域の担い手の不足が危ぶまれています。

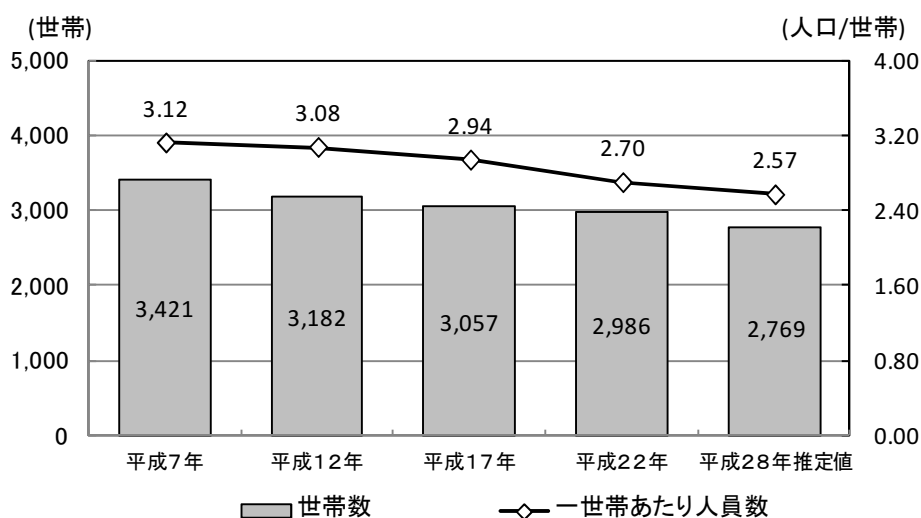
ただし、本町の現状をみる時、65歳以上の高齢人口の増加が必ずしもまちの活力低下に繋がっている訳ではありません。むしろ元気な高齢者が町を牽引している場面も数多く見受けられ、観光においてもその活躍が期待されます。



出典：国勢調査

平成28年はコーホート要因法による推定値

本町の世帯数は、平成7年には3,421世帯ありましたが、平成22年には2,986世帯に減少しています。また、一世帯あたりの人員数も減少しておりますが、これは高齢者のみの世帯や一人暮らし高齢者をはじめとする単身世帯が増加している影響と思われる。



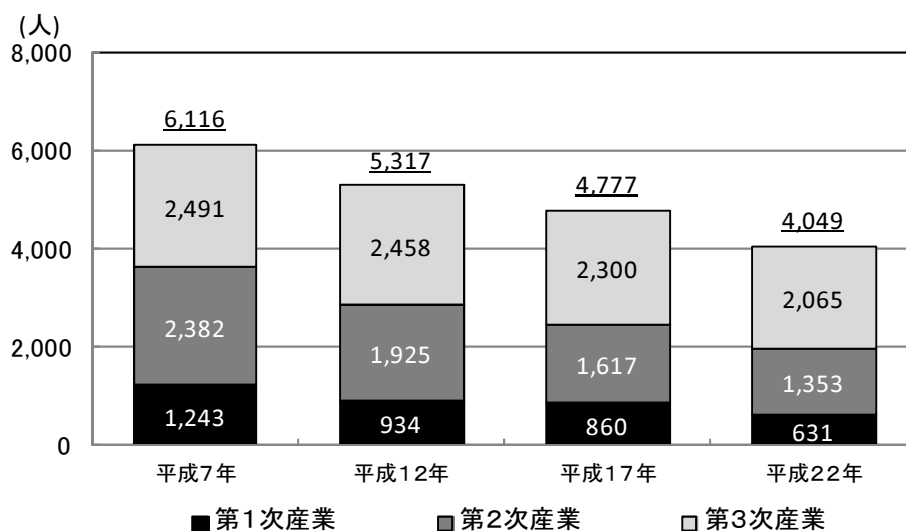
出典：国勢調査

平成28年は平成12年から17年の回帰予測による推定値

■産業（産業別就業者数）

本町の産業別就業者数は、第1次産業、第2次産業で減少傾向にあります。観光が関係する第3次産業では、平成7年から平成12年は微減でしたが、それ以降は減少の割合が徐々に大きくなっています。

今後は、地域経済の活力を向上させるため就業者の割合が高い第3次産業の活性化を図るとともに、第1次、第2次、第3次産業の連携により地域産業の振興に複合的に取り組む6次産業化を推進することも重要です。



出典：国勢調査

第1次産業：農業・林業・漁業

第2次産業：鉱業・建設業・製造業

第3次産業：小売・金融・不動産・運輸・サービス 等

■公共交通基盤

【道路】

本町の主な路線として、国道362号と国道473号、寸又峡への主要地方道川根寸又峡線、接岨峡への県道接岨峡線があります。国道473号と県道は大井川に沿って島田市へ向かって南に伸び、国道362号が東西を結んでいます。さらに、北部の静岡市井川へは静岡市道閑蔵線で繋がっています。なお、国道362号の元藤川から崎平と川根寸又峡線の奥泉から寸又峡までの区間は、すれ違いが困難な幅員の狭い箇所があり、行楽シーズンには通行の障害になったり、渋滞が発生したりするなど、地域交通への支障が生じています。そのため、バイパス等の道路改良整備が、早期解決が待ち望まれています。

近年、本町周辺では平成21年6月に富士山静岡空港が開港し、平成24年4月には新東名高速道路が開通するなど大規模なインフラ整備が進められました。これにより、県内はもとより、県外をはじめ海外からのアクセスも大幅に改善されています。

また、国道1号島田金谷バイパス4車線化の事業が決定し、慢性的な渋滞の緩和や移動時間の短縮が図られる予定です。

加えて、県では、島田金谷ICから島田金谷バイパス（国道1号）、富士山静岡空港、東名相良牧之原ICを経て御前崎港までを、地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」として整備が

進められています。これにより、各幹線道路と空港までのアクセスがさらに向上し、物流や人流の促進のほか、観光も含めた産業振興の面からも期待されます。

【鉄道】

鉄道は、JR 金谷駅と井川駅を結ぶ大井川鐵道があり、町内には 19 の駅が存在します。所要時間は、金谷駅から千頭駅までが約 70 分となっています。

また、本町の観光を支える資源として、新金谷駅から千頭駅間には S L が運行しており、千頭駅から井川駅間は南アルプスあぶとラインが運行しています。そのうちアプトいちしろ駅と長島ダム駅の間には、国内唯一のアプト式の区間があります。



【バス】

バス路線としては、千頭駅と寸又峡温泉の寸又峡温泉方面、千頭駅と閑蔵駅の閑蔵接岨方面を結ぶ大井川鐵道の路線バスや、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

■祭り、イベント・温泉・特産品・レジャー施設

【祭り・イベント】

3月 ○春を呼ぶ天狗まつり（春分の日）

寸又峡温泉において毎年春分の日に開催され、山伏と天狗が春の幕開けを祝い、また 1 年間の恵みに感謝しながら温泉街を練り歩きます。メイン会場の広場では様々な伝統芸能が披露され、奥大井のご馳走が振る舞われます。

4月 ○徳山桜まつり（徳山のしだれ桜）

県立川根高校と町営サッカー場の間に、約 50 本の枝垂（しだれ）桜が植えられた並木道は、長さ 150m。つぼみの頃から満開の時期まで、地元の人々はもちろん、遠方からの花見客で賑わいます。川根高校郷土芸能部による赤石太鼓演奏、川根高校ブラスバンド演奏、手もみ茶実演、野点、ミニ S L 運転、空手演武、各種踊り、カラオケなどの催しが行われます。

○川根茶の日イベント

立春から七十七夜目に当たる 4 月 21 日を『川根茶の日』に制定し、川根茶に親しむ「川根茶の日イベント」をフォーレなかかわね茶茗館等を会場に開催します。煎れたての川根茶を無料で味わえる「川根茶接待」、飲み比べてお茶の銘柄を当てる「闘茶会体験」をはじめ、「川根茶手揉み体験」、「川根茶料理試食」、「茶餅つき体験」など、川根茶に関する体験コーナーが賑わいを見せます。




7月 ○南アルプス寸又峡山開き

奥大井の大自然を舞台に本格的な登山やトレッキングのシーズンを迎えます。

○平谷の流したい【町指定無形民俗文化財】

毎年 7 月 14 日の夕方、青竹と麦わらを束ねて大きな松明（たいまつ）を仕立てて川に流し、水難者の霊を弔う行事であり、平谷地区だけに残る風習です。

8月	<p>○徳山の盆踊【国指定重要無形民俗文化財】 徳山の浅間神社では、毎年8月15日の夜、鹿ん舞、ヒーヤイ踊り、狂言が行われます。農作物を荒らす獣を追い払い、五穀豊穡を願って始められた鹿ん舞と、引き続いて演じられる平安貴族の舞がルーツで、どことなく気品と優雅さのある盆踊りが行われます。</p> <p>○百八たい 毎年8月16日に下長尾地区大井川河川敷で行われる、盆の送り火です。 下長尾地区で昔から行われてきた儀式で、起源は川施餓鬼（かわせがき。水死人の霊を弔うための供養）であったとも伝えられています。</p>	
9月	<p>○田代神楽【県指定無形民俗文化財】 川根本町田代地区の大井神社に伝わる神楽です。言い伝えによると1189(文治5)年、成元成善（なりもとよりよし）、成近（なりちか）の兄弟がこの地に村を開き、大井川河畔の杉の根元に大井神社を建立し、成善が神職につき神楽を奉納したと伝えられています。</p> <p>○地名の平 案山子（かかし）コンテスト 2年に一度9月末から10月末日まで、地名地区の住民が、秋の豊作に感謝し、地名区民のふれ合いと助け合い、そして健康に良いとされる笑いを目的として開催しています。</p>	
10月	<p>○徳山神楽【県指定無形民俗文化財】 修祓・降神式から始まり、昇神式までの一貫した儀式が行われ、「神の舞」「倭舞（やまとまい）」など15の舞が舞われます。「清めの式」、「四座の舞」から始まり、囃子方（はやしかた）の調べにのって、先頭は天狗、巫女、舞子、神職と続き、列中には恵比須、大黒が道化した舞を舞いながら、見物人を笑わせています。</p> <p>○寸又峡温泉 和紙のあかり展 公募により全国からあかりアート作品を集め、「和紙を使ったあかり作品」を旅館のロビーや玄関先、歩道の両側に設置し、温泉街の夜を幽玄の空間として、優しいあかりで演出します。山々に囲まれた漆黒の闇の寸又峡に、和紙の持つ柔らかさ・美しさが風情をより引き立たせ、「癒し」「懐かしさ」を演出し、幻想的な雰囲気を寸又峡温泉にもたらしめています。</p> <p>○寸又峡もみじ祭 寸又峡温泉郷において、天狗・山伏の湯かけ行列、赤石太鼓の演奏、感謝の餅つきなどの催しが開かれます。</p>	
11月	<p>○産業文化祭 役場本庁舎周辺を会場に、地域住民の交流、ふれあいの場を提供することを目的にまちの魅力・資源の再発見、地域への愛着につながる町民誰もが参加できる活気あるイベントが開催されます。</p> <p>○奥大井ふるさとまつり 音戯の郷駐車場の特設会場で特産品の青空市が開催され、仮設のステージでは各種イベントが行われます。色鮮やかな紅葉を楽しみながら、多くの人出で賑わうお祭りです。</p>	
12月	<p>○寸又峡温泉感謝祭 寸又峡温泉では、昭和32年の温泉が湧出した記念の日を祝い、毎年、12月6日、7日の2日間、「温泉供養祭・感謝祭」を開催します。観音堂から天狗・山伏行列が出発、観光客も松明（たいまつ）を持って行列に参加し温泉街を練り歩きます。会場では鹿鍋・熊鍋・鴨鍋・猪鍋の4種類の鍋「きやんぼう鍋」が並び、蕎麦、おでん、やきいも、甘酒等が振舞われます。また、町営露天風呂をはじめ、多くの旅館では入浴が無料となります。</p>	
1月	<p>○梅津神楽【県指定無形民俗文化財】 梅地のこだま石神社と犬間の若宮神社に500年以上前から伝わる神楽で、神代の神話・岩戸神楽を模したものです。伊勢流に属し、雅びな和楽器の調べにのせて「三宝の舞・天王の舞」など、古式豊かな舞が奉納されます。</p> <p>○佐澤薬師のひよんどり 三津間地区内の佐澤薬師堂において、毎年1月7日から8日の朝にかけて例祭が行われます。また、60年に一度、十干十二支庚子の年には御開帳の特別大祭が執り行われます。「ひよんどり」は、村人たちによって、村中安全・家内無事を祈願して行われる踊りで、古代の「歌垣」「踏歌」の流れをくんでいるものといわれています。</p>	

【温泉】

寸又峡温泉	泉質は、硫化水素系・単純硫黄泉で、切り傷、慢性皮膚病、慢性婦人病、糖尿病などに良いと言われています。また、湯上がりの肌のつるつるすべすべとした感じが特徴で、その効用から「美女づくりの湯」と呼ばれています。なお、日本の名湯百選にも選定されています。
接岨峡温泉	大地のシワのような、深い溪谷に湧き出る接岨の湯は、ナトリウム-炭酸水素塩冷鉱泉で、胃腸疾患、リュウマチ、神経痛などに効能があります。また、炭酸を多く含んだ重曹泉（透明）で、皮膚の分泌を促進し、老廃物を取り除いてくれることから、「若返りの湯」とも呼ばれています。
白沢温泉	昭和62年ヘリコプターによる温泉空中探査により湧出した温泉です。泉質はナトリウム-炭酸水素鉱泉で、神経痛、慢性消火器病、冷え性、疲労回復など健康づくりには最適で、「リフレッシュの湯」と呼ばれています。
千頭温泉	平成9年に湧出した新しい温泉で、源泉は大井川鐵道の千頭駅に近くにあります。泉質は、ナトリウム-炭酸水素塩泉で、神経痛・筋肉痛、関節痛、冷え症などに効能があります。
梅高温泉	梅高温泉は、町民のみが利用できる「川根本町ふれあい温泉スタンド」として、健康増進、福祉の向上を目的に無料で開放されています。泉質は、ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩冷鉱泉です。

【特産品】

川根茶	大井川上流一帯は、江戸時代から知られる銘茶の産地です。茶栽培の伝統と大井川の清らかな水、川霧から立つ冷涼な気候に恵まれ、香気・滋味ともに申し分のない茶芽が育ちます。川根路には自園自製の手摘み茶園が多いのも特徴であり、全国茶品評会でも数多くの受賞を得ています。また、近年では紅茶やフレーバーティーとして活用されるなど、川根茶の魅力や可能性がますます広がっています。
茶羊かん	茶羊かんは、川根茶をはじめ厳選された原料や製法にこだわり、色・味・香りの三拍子が揃った絶妙な風味の川根路銘菓です。
しいたけ	ホダ木（原木）にしいたけ菌を接種してから約17ヶ月が経過し、頭をだします。川根本町のしいたけは、原木栽培が中心で高い香りと豊かな風味が特徴です。
自然薯（じねんじょ）	清らかな水と空気、豊かな大地で育った風味・ネバリが特徴で栄養満点の自然薯です。
わさび	清流で育った新鮮なわさびは、ピリッとした辛味もまた格別です。
山菜・川魚	春先のわらび、ゼンマイ、たけのこ、夏季のあまご、鮎など季節の幸が楽しめます。
柚子	町内の生産者で組織する組合が中心となって、ゆず酢やゆずジュース、ゆず味噌など加工品としても販売しています。
八つ頭	八つ頭は里芋の一種で、本町ではお雑煮に入れたり、茎は干して芋がらとして煮て食べたりします。

【公共の観光施設・レジャー施設】

資料館やまびこ	南アルプスから湧き出る水をあわせて蛇行する大井川流域の地勢と、緑豊かな森林に育まれる生物界、そして、その自然との調和・共存をはかりながら営んできた山峡（やまかい）の生活と文化に焦点をあてた施設です。山間地という立地条件から「山の資料館」として、「山と人間」・「過去と現代」の対話を通して環境保全やエコロジー精神を培います。
長島ダムふれあい館	長島ダムは、多目的ダムとして洪水調節、流水の機能の維持、かんがい、水道用水・工業用水の供給を目的としています。また、「地域に開かれたダム」として、ダム堤体部の一般開放や貯水池周辺の施設設置を許可するなど、地域の活性化の為に環境整備が行われています。

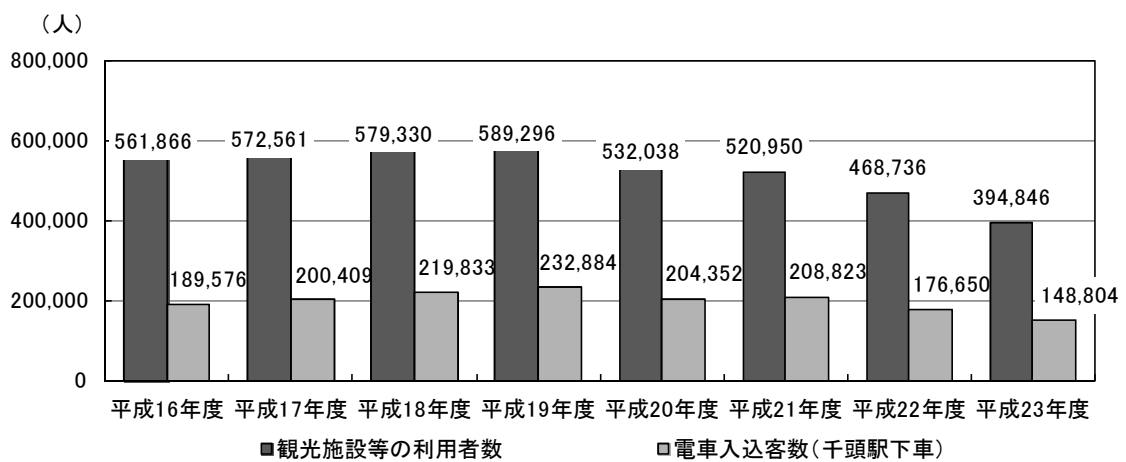
寸又峡温泉露天風呂	寸又峡の温泉街の一番奥にある露天風呂です。湯船から眺められる美しい沢の景色も好評で、ゆっくり「美女づくりの湯」が堪能できます。
南アルプス山岳図書館	平成 21 年 3 月、寸又峡にオープン。南アルプス南部の山・川・民俗等の図書や関連資料の約 7,000 部の蔵書があります。寸又峡を訪れる登山者や旅行者に関係情報の収集のために活用されてもいます。
もりのいずみ	清流のせせらぎと野鳥のさえずりが聞こえる森の中にある温泉スポット。木漏れ日あふれる露天風呂と陶器風呂、かぶり湯、うたせ湯、寝湯・気泡湯など 9 種類のお風呂が楽しめ、1 日たっぷり温泉三昧で過ごせます。
もりのコテージ	奥大井の自然に抱かれた静かな宿泊施設で、ほんのりと木の香りが漂う、ログハウス風のコテージがあります。温泉施設「もりのいずみ」と隣接し、自然と温泉を満喫できます。
奥大井 音戯の郷	音をテーマにした体験ミュージアムです。野鳥のさえずりなど自然の中にある様々な音を聴診器で聴くコーナーや音のシャワーが注ぐドームなど、誰もが自由に音に触れることで、遊び心や感性が呼び覚まされます。
フォーレなかかわね茶茗館	まちの暮らしや産業、自然、産物などを、川根茶をキーワードに紹介するコミュニティエリアです。日本庭園の見える茶室では、手作りのお菓子をお茶うけに、美味しい川根茶を味わうことができます。また、1 階「シルエットギャラリー」には、日本を代表する影絵作家藤城清治氏による川根本町の情景、春夏秋冬を題材に描いた影絵が展示されています。
ウッドハウスおろくぼ	豊かな木の質感あふれる館内には、ラウンジ、レストランなどの一般利用者のための休憩施設や宿泊施設があります。敷地内には動植物や山のくらし等を紹介する「緑の伝習館」があり、研修室も利用ができます。
なかかわね三ツ星天文台	平成 6 年に環境省が主催する全国星空継続観察の結果、川根本町（旧中川根）が、「澄んだ星空 全国第 2 位」になったことを受けて、建設されたもので、満天の星空が望め、四季折々の星を観察できます。天文愛好家等で組織された MAC（マック）のメンバーが季節、時間にあわせて様々な天体について分かりやすく説明してくれます。
アプトいちしろキャンプ場	南アルプスの麓の雄大な自然の中にあるキャンプ場で、快適な芝サイトから、溪谷に行く南アルプスあぶとラインと大井川を間近に眺められます。旧井川線の薄暗いトンネルに行くウォーキングや水遊びが出来るなど、見所が多い場所です。
八木キャンプ場	大井川の河畔にある老舗のキャンプ場です。大井川鐵道千頭駅から車で 10 分ほどの距離で、アウトドアの初心者が安心して利用できます。周辺には温泉施設「もりのいずみ」やテニスコート、ちびっ子広場、つり橋があり、キャンプ以外にも楽しむことができます。
池の谷ファミリーキャンプ場	寸又川河畔の雑木林の中にある雰囲気の良いキャンプ場です。オートキャンプ 80 台、フリーテントサイト 100 張可能で、バンガロー 7 棟のほか、キャンプファイヤーのスペース等の施設を完備した本格的なキャンプ場です。
三ツ星オートキャンプ場	大井川支流の長尾川沿いにあるファミリー向けのオートキャンプ場です。さまざまな体験イベントが開催されるとともに、有料ピザ窯、へっつい（かまど）の貸し出しも行っています。
不動の滝自然広場 オートキャンプ場	緑に囲まれた不動の滝自然公園の中にあるオートキャンプ場です。森の中の小さなキャンプ場で水の流れに耳を傾けながらキャンプを楽しめます。沢に沿って 10 分ほどすすめば、落差 45m の不動の滝が水しぶきをあげています。
くのわき親水公園キャンプ場	大井川河畔の敷地面積 4 万平方メートルで、700 人の収容が可能な明るい雰囲気のある広々としたキャンプ場です。バーベキュー棟や売店など施設も整っており、森林浴、ハイキング、川遊び、グラウンドゴルフもできます。また、近くには観光客にも人気の「塩郷の吊橋」もあり、対岸を走る S L 列車を一望できる人気のスポットです。
グラウンドゴルフ場の誘客への活用	川根本町商工会の発案で地域の愛好家が管理するグラウンドゴルフ場と、ホテルや旅館、食堂が連携した誘客事業を行っています。グラウンドゴルフをプレーした後、温泉旅館に宿泊できるパックプランと、食事付きの日帰りプランがあります。

3. 本町を取り巻く観光の状況

■観光施設等の利用者の推移

観光施設等の利用者数の推移は平成16年度から21年度までは、年間50万人以上で推移していましたが、平成22年度に468,736人、平成23年度では394,846人と40万人を下回っています。一方で、電車入込客数も平成19年度の232,884人をピークに年々減少していて、平成23年度には148,804人と、初めて15万人を割り込みました。

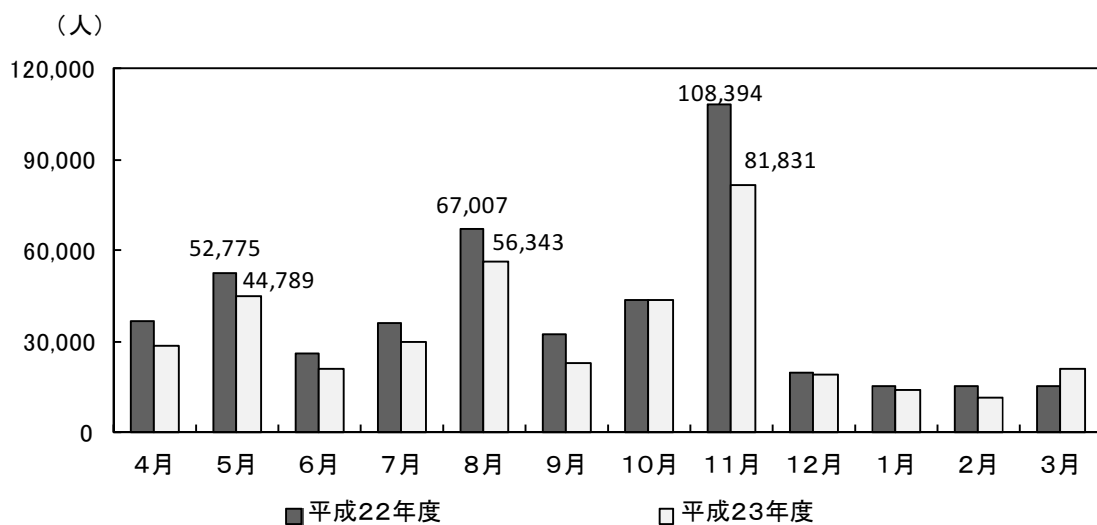
なお、平成23年度は前年対比15%以上の落ち込みとなっていますが、これは、東日本大震災による影響が考えられます。平成24年度においては、幾分持ち直していますが、更なる誘客を図っていく必要があります。



出典：商工観光課

■月別観光施設等の利用者数の推移

月別観光施設等の利用者は、平成22年度、23年度ともに、5月のゴールデンウィークと8月の夏休みの休暇時期に増加します。また、年間を通して最も利用者が多いのは、紅葉が見頃となる11月で、平成23年度には8万人を超えています。一方で、12月から3月までの期間には利用者数が低迷する傾向にあります。

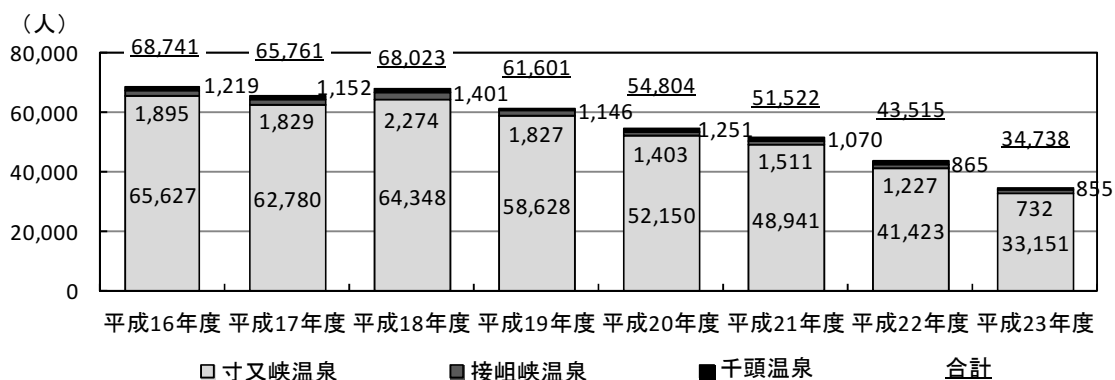


出典：平成22、23年度観光入込調査

■宿泊客数の推移（入湯税申告による統計）

町内の宿泊客は、寸又峡温泉の宿泊客が全体の宿泊の95%以上を占めています。平成16年度から19年度までは、年間の利用者が6万人以上となっていました。平成20年度以降年々減少し、平成23年度には34,738人と大きく落ち込んでいます。この数値は、5年前（平成18年度）の半分程となっています。

顧客単価の高い宿泊客を増加させることは、地域経済への波及効果や地域活性化への影響も大きいことから、宿泊客の増加を図る対応策が求められています。



出典：商工観光課

■主要施設等の利用者数の推移

主要施設等の利用者数は、「寸又峡溪谷」が最も多く、平成23年度では60,558人となっています。ただし、「寸又峡露天風呂」とともに平成19年度と比べて4割程減少するなど寸又峡全体で利用者数が落ち込んでいることが分かります。また、「音戯の郷」「長島ダムふれあい館」及び一部のキャンプ場でも利用者が減少しています。

しかし、その一方で「くのわきキャンプ場」や「三ツ星キャンプ場」のように利用者を増やしている施設もあります。さらにキャンプ場全体でも、20,251人から21,274人に増えており、アウトドアブームによる影響と思われる。

	寸又峡 溪谷	寸又峡 露天風呂	接岨峡 温泉会館	もりのいずみ	音戯の郷	長島ダム ふれあい館	茶茗館
平成19年度	102,029	17,362	24,008	39,778	32,008	25,899	25,690
平成20年度	94,179	17,223	22,165	36,672	30,020	23,414	23,590
平成21年度	87,831	15,425	23,591	33,892	25,018	22,954	22,920
平成22年度	81,155	13,493	24,423	36,597	21,634	20,229	21,176
平成23年度	60,558	10,745	20,381	32,370	18,813	18,674	23,014

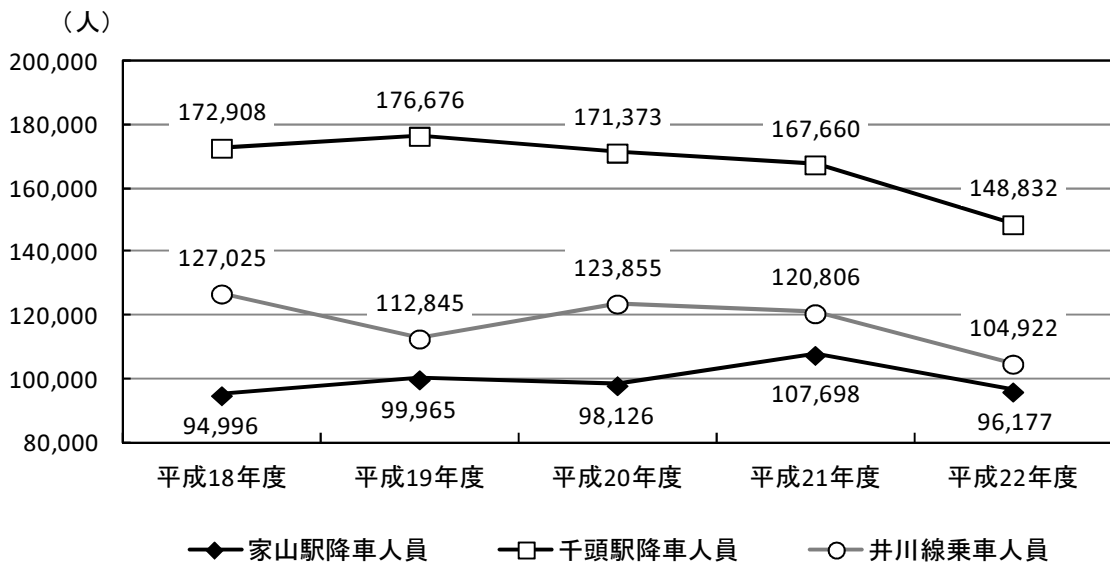
	くのわき キャンプ場	三ツ星 キャンプ場	自然 キャンプ村	池の谷 キャンプ場	八木 キャンプ場	アプトいしろ キャンプ場	もりの コテージ	ウッドハウス おろくぼ
平成19年度	12,253	814	3,200	1,294	2,452	238	3,033	1,178
平成20年度	11,385	571	2,369	980	2,385	255	3,528	963
平成21年度	13,086	1,286	2,317	2,298	2,442	691	3,256	1,281
平成22年度	14,148	3,798	1,608	1,608	1,941	515	2,617	1,227
平成23年度	12,895	3,754	1,040	1,087	1,676	822	3,004	1,005

出典：商工観光課

■大井川鐵道の運輸状況の推移

大井川鐵道の利用者は、本線及び井川線の合計で平成18年度の乗車人員929,416人から平成22年度には777,604人と、16.3%の減少となっています。なかでも千頭駅の本線の下車人員と井川線の乗車人員の減少が目立っています。一方で、家山駅下車人員は、横ばいで推移しており、地名から千頭までの川根本町区間において乗車人員の減少が進んでいる状況です。

なお、平成25年度には、町内の鉄道沿線や駅周辺を中心とした地域の振興や活性化を図る「川根本町レールパーク構想」の策定が予定されています。この構想には、鉄道利用者数の回復についても期待が持たれるところです。



出典：統計センター、静岡県統計年鑑・鉄道運輸状況

4. 各種調査等からみた川根本町の課題

■団体・企業等ヒアリング

①団体・企業等ヒアリングの概要

【実施概要】

対象者：川根本町内で観光に係わる活動を行っている団体・企業等

時 期：平成 24 年 9 月上旬～下旬

【目的】

川根本町の観光に日頃から携わるなかでの現状や課題、観光に対するご意見や今後の方向性・ご意向等を把握することを目的としています。

②団体・企業等ヒアリングの結果

各種関係団体等から出た主な課題や方向性は以下の通りです。

観光の課題	求められる対策や方向性
食事処が充実していない	地元ならではの食材を活かした料理の発掘や、千頭駅周辺の食事施設の整備が必要とされています。
年間を通じた体験型の観光地がない	町内に豊富にある自然を活かし、トレッキングコースやフィールドアスレチックの整備、接岨湖のカヌーや大井川流域での川遊びなど、体験型の観光地整備や、グリーン・ツーリズム ^(*) など、宿泊も伴った環境づくりが求められています。
町内の回遊ルートがない	点在する観光資源を有機的につなげるための回遊コースを整備し、観光客の回遊性を高め、観光地として活性化を図っていく必要があります。
観光地としての“おもてなしの心”が欠けている	観光地として、自店の繁栄につながる努力や“おもてなしの心”の育成が必要となっています。「観光振興なくして川根本町の発展なし」という覚悟のもと、お客様をもてなすための環境づくりが求められています。
宣伝活動・PR不足している	町民一人ひとりが、まちへの愛着をもち、観光客への観光名所などの情報提供に取り組むことや、行政などをはじめとし、観光地として町外や県外への宣伝活動に取り組むことが求められています。
千頭駅周辺の観光地整備が不十分である	千頭駅は川根本町の主要観光資源でもあるSLの発着駅であり、各地に点在する観光地を結ぶ拠点になります。「音戯の郷」を含め、休憩スペースや飲食スペースの設置など、駅前周辺施設の整備により、観光客の滞在時間の延伸を図っていくことが必要です。

^(*) グリーン・ツーリズム＝農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

■ワークショップ

①ワークショップの概要

【実施概要】

参加者：町内の日頃から観光に携わっている方々や、一般公募

人数：第1回（34名程度）、第2回～3回（15名程度）

時期：第1回 9月20日、第2回 10月11日（木）、第3回 10月25日（木）

【目的】

川根本町のこれからの観光について考えるため、まちの魅力を発掘し、商品開発やブランド強化、観光ツアーを開発・展開していくため、それぞれのテーマに分かれ、協議を行いながら理解・認識を共有することを目的としています。

②ワークショップの結果

第1回 模造紙に書きこまれた「川根本町の魅力」のキーワードは、合計363項目でした。意見をカテゴリ別に分類すると、以下のようになります。

区分	意見数	区分	意見数
①自然環境に関するもの	110	④観光名所に関するもの	64
・立地・気候	9	・鉄道	13
・自然の豊かさ	17	・温泉	17
・川	16	・つり橋・橋	19
・山	25	・ダム	7
・動物・植物	18	・その他	8
・景観	20	⑤スポーツに関するもの	35
・その他	5	⑥町民生活に関するもの	36
②歴史・文化に関するもの	33	⑦コミュニティ等に関するもの	44
③食に関するもの	26	⑧その他	15

意見が多いのは、「①自然環境に関するもの」「④観光名所に関するもの」「⑦コミュニティ等に関するもの」の順で、自然環境でも特に「山」「景観」に関する意見が多く、南アルプス南部の山麓と前衛の山々が織り成す四季折々の美しい景観がまちの強みとして認識されている事がわかります。

一方で、「③食に関するもの」が一番少なく、本町の観光における課題として、特産品や飲食店などの充実となっています。本町には特産品として「川根茶」があり、農林水産大臣賞を受賞する程の銘茶ですが、全国的な知名度はそれほど高くはありません。今後、更なるPR活動などが求められています。

県外や他市町からのアクセスが良くなったことを受け、観光客の集客を図るための観光地整備や、周遊ルートの設定などが必要とされています。

観光資源・名所（ポイント）をつなぐコースやツアーを組み、各地に点在している観光資源を“つなげる仕掛けづくり”が重要となっています。